No. 63

1957年2月1日

千曲會報

昭和32年2月1日発行
長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可　毎月1日発行　定価1部15円

主な記事

よい意味の妥協……1頁
蚕糸黄金時代の思い出……2頁
文献抄録……4頁
竹田先生農学博士に……4頁
サロン……5頁
会員近況……7頁

よい意味の妥協

深河露夢

私は人々が互いに自分の意見を主張し，いつはてるともない議論をはじめると，間をとるために「先生」と「農民」の「講習会」における態度の一例を思い出したりする。はなはだ申しわけのないことだが，私は私なりに，勝手にとなりの人と音高に雑談している人よりも他人にめいわくをかけないだけよいと思つている。

某月某日，私は一ちようらの着物を着た男2人が校門（繊維学部）に向つて前をまくつて用を足しているのに出合つた。所もあろうに校門とは，と私は少なからず度胆を抜かれたが，しかし当人のしぐさはいささかも物おじしない堂々たるもので，むしろ私の方が恥かしいことをしたような錯覚におちいつた。その農家の方の行先は，当日開催される講習会の会場だつたので，会場を受持つ私としては何やら困つたなという感じがし，おそらく無秩序に終始するだろうことを想像していた。ところが驚いたことに私の想像は物の見事にはずれ，禁煙，禁土足などの規定はよく守られていたのみか実に静粛で気持のよい講習会になつたのだつた。一方数日後に行われた「先生」のさる講習会にも係として出た私は，こんどは期待を裏切られた驚きを受けた。先生は案外「禁」を「許」におきかえ，講習態度も良いとはいえないものだつたからである。だが先生といわれるような人は，通常門前で小用を足すような行儀の悪いことをしないし，少くとも乗物に乗つたり，映画を見たりするとき，またその他の公衆道徳はよく守つてい，だから先生と農家の人の行儀の良否はこれだけでは，にわかに評断を許さない。どちらも自覚して行つていない点では，とがめ立てすることもかえなければならないと思う。つまりこのようなちぐはぐな結果は，それぞれの生活環境の馴れの差によるものであるからである。

農家の方は田や畑を生活の場としているから，大学とは宮城の次ぎぐらいに荘厳な所と考えて校門をくぐるであろう。（少しいい過ぎかも知れないが，多少そんなふしが見える）それが校門に入る前の武者振いとなり，平生の青天放尿性がゆくりなくも出る。先生の方は，学校を生活の場としており大学では講義もうけただろうし，しよつちゆう大学にも出入りするから，自然講習態度もアト・ホームとなり，ルーズになりがちである（これも牽強附会とはいえまい）。

先生にしろ農家の方にしろ，この一見両極端的な行為が矛盾なく両立していることはふしぎといえば，ふしぎともいえるが，それこそが人間本来の姿であつて，むしろ自然だといえよう。矛盾を理論でしめつけて，農家の人を道徳的だとしまたは先生を非道徳的だと主張しようとすれば，議論は果てることはなかろう。

こんな場合には農家の人の立小便したことは順次改めて頂くことにして一まず切捨て，先生には学校で生徒に物を教えるときのことを思い出してもらうことぐらいに止めて余り詮議立てしなければ，おのずから両者が道徳的であるという答えが残つて来るのではないか？　それだのになぜこうも議論を続けるのだろうか？　上の一例のような妥協の糸口はないのだろうかと思つてしまう。

世の中には妥協することの全くきらいな人がある。自分の意見や思想が金科玉条と信じ，その意見でなければ何もできなくなると過大評価するが如きである。こんな人が2,3人も会議に出て討議し始めるとめいわくするのは，はたの人たちである。見たくもない，聞きたくもない自我斗争劇の一巻にごしようばんにあずかることになる。

一体一応のアタマを持つている私たちが「妥協」することは，自分を敗北させ，相手に屈服し，男前を下げ，すこぶる節操のない，何か浮薄な思想の持主にでもなり下るのであろうか？しかし，ある方もこんこんと述べているように「わたし」と「あなた」とで妥協できるということは，それによつて相手を満足させ，相手との調和をとり，自分も相手も一歩前進することを意味しはしないか。妥協できるということはその人が立派な思想の持ち主であつて，しかもこの思想も通り一辺のものでなく，たくさんの側面を持ち，多角的立体的であるからである。その一角を切り捨てることによつて相手方と妥協しても，それによつて自分の思想が破綻（はたん）を来たすことには，なかなかならないのではあるまいか。この切り捨て作業がいかにもむずかしいように考えるのは，すでに固形化した融通のきかない思想の持ち主であることの証明である。もともと個別的にバラバラの思想をつなぎとめているのは自分であるから，自分の持物の一部分を切りとることは，さしてむずかしいものではないと思われるのである。

千曲会当面の重大問題である〝50周年記念事業〟も，1年有余の月日をへて，一応の意見は出揃つたようである。会館案・資金案・研究施設案・その他，いずれもロジカルな意見である。私の如きものはそれぞれの説明者の話をきいていると，いつの間にかその熱意に同化されて，取捨選択に迷つてしまう。いつそ皆一度に達成成されたらあと思つたりする。だがみな一度に満たされないことを知ると，どれかに調和する必要性を感ぜずにはいられないお。そらく私のような立場の方で同じ悩みに陥つている人も多いと思う。しかし私にあつては取捨の基準すなわち事業は何のためにやるのか？そのピークがはつきり把握されていないことに原因がある。50周年記念事業は直接間接に互に関連があつて区別しにくい

とはいえ，大よそ

A (1)学校のことを主体とするのか？ （学校のため）

B (2)同窓会の強化を計るを目的とするのか？（同窓のため）

(3)同窓会員の福祉に重点をおくのか？ （同窓のため）

C (4)繊維業界に貢献することをやるのか？ （社会のため）

(5)一般社会人を利することを行うのか？ （社会のため）

(6)以上のどれか組合せたものに平等目的があるのか？

等々に分けられよう。これだけのことを総体的に充たす案がないとするのが常識だから，この際どれを最高ピークとするか，または双峰3峰型でいくかなど討議して頂き，他は一応切りとつてゆくことが願わしい。そうすれば事業の性格も自ら限定され，少くも私には妥協の心構えが生じてくるであろう。今のままでは実際私たちは登山口にうろうろする群集で山をみながら，こわくて山へ登る気にもなれないのである。現在実行云々は別として，もつとも多峰的で融通性にとみ，安定的な案は資金案であることは衆目のみるところである。しかし，それはそれなりに多くの欠点を持つてい。こんごの皆さんの討議にはぜひ〃よい意味の妥協々精神をとり入れられて，ピークを浮び上らせてもらいたいと切望している。

蚕糸黄金時代の思い出

久保田昌人

明治の末期から昭和の初め頃にかけ，生糸は輸出の大宗といわれ，外貨獲得の第一位を占めたのだから，今の蚕糸業と比べ今昔の感に堪えない。

本邦の産繭額1億貫，私の勤務した片倉製糸紡績会社（現片倉工業会社）は，傍系会社を合せて釜数2万2千，購繭量1千4百万貫という豪華なものであつた。

数字的に示すことは一寸出来兼ねるが，片倉，郡是，鐘紡などの大製糸の生糸の製造高は，全製造高の4,5割に近かつたので，その勢力は大したものゝように思えた。しかも何れも蚕種製造をし，原料繭確保のため特約組合を持ち，蚕種の配布，養蚕指導をしたので，蚕作も安定し，良繭の多收も出来たのだから，今の団体協約取引などと比べ，実に余裕綽々たる原料繭購入が出来たのである。

私は片倉本社に14カ年在勤したが，其間理想的な特約取引をする為，その原案を作成したものである。その後色々の改廃を加えたが，特約取引は相当長い命脈を保つたものである。特約取引の功罪に就ては色々取沙汰されたが，蚕糸業改良発達に寄与した点は讃えてもよいではないか。特約取引は官庁側でも白眼視する向もあり，組合製糸等からは，眼の上のこぶ的存在に見られたようだ。産繭獲得で全国的に組合製糸と競争したことは愉快なことだつた。製糸経営の要諦は，優良繭確保にあるのだから，この目的達成に努力しないものは脱落の外なかつた。依田社，山丸，小口組などは，その例にもれないと思う。

当時片倉会社では，副社長今井五介翁は，多額納税の貴族院議員から勅選議員となり，その後に取締役武井覚太郎翁が多額納税議員になるというような訳で，政治的に進出したのである。

武井翁の工場は，個人経営の工場としては設備もよく内容も堅実であつたが，将来を慮り片倉組が株式組織に変更した際，須坂の田中新之助氏の工場と共に合併されたのである。更に武井翁のひとり娘に片倉武雄氏（今井翁の令甥）の令弟方介を婿養子として迎え，片倉家とは姻戚となつた。

武井翁が貴族院議員となつた時，論議の的となつていた原蚕種国家管理法案につき質問演説をする運びになつたものゝ原蚕種国家管理について，深い考えもなくて演説をするのだから面白い。そこで質問演説の原稿の草案を私に依頼されたのである。私は壮年時代で，盲蛇ではあるが，諸資料を集めて原稿を書き上げ，武井翁に渡したのである。ところが愈々原蚕種管理法案委員会で咱弁なため勢い朗読調となつたらしい。当時委員会は傍聴出来なかつたので，その間の消息を知る由もなかつたが，その後信濃毎日新聞の報道によれば，武井議員の処女演説は頗る出来がよかつたとのことであつた。早速速記録を見たところ，私の原稿そのままだつたのには，苦笑せざるを得なかつたのである。

しかし其時に答弁に当つたのは蚕糸行政のエクスパート井野碩哉蚕糸局長（後に農林大臣となり現参議院議員）で逐一明快な答弁をしたように記憶する。一の矢は射たものゝ，二の矢がつがないので，トコトンまで政府委員に迫ることが出来なかつたのは遺憾であつた。私も貴族院議員になつたような気がしたことは愉快であつた。

今でも恐らくこんな風な議員が衆・参両議員や県議会議員の中にも相当おるのではあるまいか。少くも議会人となるくらいのものは，相当の見識と抱負とを持ち，自分で原稿を書き，演説をする位の勉強をし，一貫したイデオロギーの所有者であつてもらいたいものだ。柔道の有段者やボキシングの名人が，巾を利かす議員などは，どう見ても民主々義政治の線にはそわないと思う。

武井翁は信州高遠町出身で，官僚の大御所伊沢多喜男氏の率いる貴族院同成会（民政党系の会派）に入会した。ある日入会の挨拶披露の宴を，築地錦水という料亭で催すことゝなり，同会所属の議員20数名を招待されたところ，質問演説起草の礼という意味を兼ねてか，接伴役を仰付けられた。出席された方で憶えているのは，伊沢多喜男（元東京市長，元台湾総督）藤沢幾之輔（元衆議院議長）加藤政之助（民政党の長老）川上親晴（元警視総監）次田大三郎（元警保局長）青木周造（元鉄道次官）平沼亮三（神奈川県多額議員，現横浜市長）油井徳蔵（福島県多額議員）氏等で，当時の貴族院のうるさ型の連中のように見受けた。愈々開宴に先だち，武井翁が咱弁で「我蚕糸業は云々!!」と平素のうん蓄を傾けて，挨拶と一緒にしやべつたものだから，おえら方の前で格構がつかなくなつた。

挨拶が済んでから，井沢氏の前にお酌に行つたところ「君などがついていて，何であんな挨拶をさせたのだ」とひやかされたものだ。勿論別に武井翁から何の相談もなかつたので知る由もなかつたのである。こんなことも，そうそうたる政治家の前では心得ておかなければならないエチケツトであるようだ。伊沢氏は身長5尺1寸位の短軀で，然かも痩せ型の

余り見栄のする方ではなかつた。広い額で顔の半分位あるといつてもよいくらいで，隼のような感じで，全身が智恵でかたまつていると表現するが適当するようだ。当時伊沢氏の一挙手一投足は，天下の耳目を引いたのだから，さぞかし愉快だつたろうと人ごとながら思えた。同氏は65，6才だつたが，晩酌は2本づつやられるといわれた。顔に似合わず仲々冗談などいゝながら，芸者などからかう手口は鮮かだつた。あゝいう人は酒の席では絶対に政治のことは口にせず，酒々落々たるものだつたように思う。今井五介翁なども，老若男女の何れでも話のバツを合せて相手となり，あきさせなかつたことを見聞したが，軌を同じくしたものだ。

当時三土忠造という大蔵大臣などした政友会の長老があつたが　宴席では政治のことなど口にせず，猥談に終始し，和気藹々たる雰囲気を作つたと聞いている。

藤沢幾之輔氏は，70何才だつたが，体軀堂々で身長5尺7，8寸もあり，仲々酒も強く如才もなくチツトもえらがらず，若い吾々とザツクバランに杯の献酬をされたことを思い出される。

加藤政之助氏は，82，3才で，ウラ天の仇名があつただけに余り立派な方ではなかつた。酒は余り飲まないものゝ膳部の料理を全部平げるという健啖ぶりには驚いた。

平沼亮三氏は，遅れて来たバチとのことで，床の間を背負わされてテレておられた姿は，思い出してもこつけいだつた。当時55，6才だつたようだが，慶応義塾の大先輩で，運動界の大御所だけに，明朗快活な方だつたように記憶している。現在老齢ながら横浜市長として活躍され，本年文化勲章を受領されたことは周知の通りである。

こんな有名人の集いだから，画帖でも用意しておいて，記念揮毫をしていたゞいたら，さぞかしよかつたろうと今でも思つている。

戦前毎年必ず農林省に各都道府県の蚕糸業主任官の会議を開くことが恒例であつたが，その都度今井五介翁の名を以て片倉会社が関係官を一名招待し，同翁得意の抱負の片鱗を挨拶と共に開陳したものである。恐らく当時の主任官も，片倉の招待を行事の一つに加えて楽しみにしておつたようだ。同翁は老齢ながら酒間，地方の主任官と万遍なく意見の交換を行い，地方情勢を聴取したものである。

その精力の絶倫振りには敬服した。料亭は東京一大きい矢の倉福井楼に定つていて，大抵の場合，私が設営を仰付かつたものだが，今井翁は賓客に失礼があつてはならないと，微に入り細をうがつた注意をされたことは，よい教訓だつたと思つている。宴席のエチケツトなども今井翁からいろいろ教えをうけたことは今でも感謝している。時々招待状のことなどで，目の玉の飛び出る位の叱られ方をしたが，賓客の前では絶対に御免を蒙ると駄目を押しておいたので，多少の落度があつても見逃して貰つたことが度々あつた。

なお蚕糸業の重要性を認識させ，その政策実行上，如何しても貴族院議員の協力を待なければならないとし，今井翁の所属している研究会の人達数十名を，片倉大宮製糸所および研究所に案内したことがあつた。私も今井翁に随行し案内役をしたのである。偶々一条実孝氏（元公爵）に黄繭の説明をしたところ，「私達のように，京都の人だけで結婚せず，鹿児島県人などと結婚する方が，よい人間が出来ますね」といわれたことを覚えているが，黄繭から人種改良のことを認識されたことは面白いエピソードと思つている。

同氏はその後，大正天皇の御大喪使長官を拝命され，多摩陵の帰途省線電車でお会いしたが，大宮のことを覚えておられ，私などの小者とも平民的に雑談を交えられたのには敬服の外ない。かくも今井翁は，常に本部蚕糸業を発展助長される方法，手段については，如何な風にするが最も適切だかということを，大乗的に考えておつたのは偉いと思う，

二代片倉兼太郎翁（当時の社長）は，今井翁の実弟で，一人一業主義に終始し，片倉会社経営の中心人物で，大片倉建設の大功労者であつた。

原料繭仕入の時など，深更迄部下を指揮督励し，機敏な措置を講ぜられたのである。

二代片倉翁も仲々叱り方がひどかつたが，おこつた後は全く台風一過の感があり，部下を可愛がられたものである。一端部下を信用すれば，その者の起案文などは，碌々見ないで裁決の捺印をされたものである。

二代片倉翁が，片倉会社の社長，会長当時同翁の前で平取締役などの内に，同翁の前で卒直に物をいうことの出来ない人があつたが，私など無感覚の故為か，平気で物をいうのを聞いていて，心臓の強いのに驚かれたことがある。壮年期に両翁の側近におつて，直接有益な指導をうけ，陰に陽に可愛がつていたゞいたためか，父の夢よりも，両翁の夢を見ることが多く当時を追憶しておる。

蚕糸業華かだつた当時に於て，色々の型の変つていた2代片倉兼太郎，今井五介，武井覚太郎の3翁，恩師針塚長太郎先生（初代母校々長）や直接薫陶を受けなかつたが，大正7年，1学年の3学期に若さの至りから，針塚校長の排斥のストライキをした時，説諭らしいことをいわずに，私に頭を下げさせた三吉米熊先生（初代小県蚕業学校長）のような人格識見の卓越した実業教育家，武井翁につながる伊沢多喜男，藤沢幾之輔，加藤政之助の各氏の如き政治家の姿が瞼に浮ぶのである。

これ等の人々に較べ，戦後派の政治家，実業家などは，遙かに劣るような感じがしてならない。これも結局人格の陶冶や修養が足らず，抱負経りんに就ても，現実主義のデタトコ勝負式であるように感ぜられてならない。

敢て蚕糸業黄金時代の思い出を書いたが，温故知新の資ともなれば望外の幸である。（蚕7）

当選御礼

林　貞三

千曲会
会員の皆様へ

昨冬日本蚕糸学会を始め各位の御推薦を戴き，日本学術会議第6部全国区会に立候補致しました処，浅学非才その器でありませんのに，蚕糸学代表として当選の栄を得ましたのは皆様の深き御同情と有力なる御高援の賜と存じ只感銘致して居ります。

此の上は公約を重んじ何とかして皆様の御眷顧と御期待に報いるよう精魂を尽して努力致し度い考で一杯であります。

幸に微意を諒せられ今後共一層の御指導と御支援とを仰ぎ度く御願申上げます。

1月20日より開かれる総会への出席を前にし一言御挨拶申述べた次第であります。

蚕糸・繊維化学の最近の研究

―― 学術雑誌よりの抄録紹介 ――

蚕　糸　経　済

昭和30年度群馬県蚕糸業の概要

群馬県経済部蚕糸課，1－76 (1956)

本報告は日本でもっとも斯業の盛んである群馬県蚕糸業の概要を知る上に必須の資料である。全体は群馬県蚕糸業の概要，県財政と蚕糸関係予算および諸統計の3章からなる。主なるトピックは次のようである。

蚕糸業施設概要
主な府県蚕糸課職員ならびに予算の概況
群馬県蚕糸業の地位
主要作物の作付変遷
蚕桑関係（最近5カ年の蚕種掃立量　実収繭量，桑園1反歩当収繭量，29年度市町村別桑園面積，桑園，桑苗生産飼育，農家経済）
蚕種関係（各種蚕種取引数量，蚕種価格）
製糸関係（製糸操業状況，生糸販売業者調，生糸製造販売費）
繭検定関係（年次別成績，各種検定成績，検定繭受付状況）
産繭処理関係（検定供用繭抽出実施状況，業種別上繭受渡荷口数量，産繭処理方法別数量，繭需要者別収納数量，生繭売買許可業者の業務状況，繭の価格）
桑の生育と蚕況（桑品種別生育調査，蚕期別掃立・上簇月日，蚕況）
蚕桑災害関係（被害名と発年月日，桑樹凍霜害被害状況，桑樹雹害状況，降雪被害面積，桑樹赤渋病被害状況，きようそ被害状況，災害支払金ならびに割合，災害別繭減収量）
技術指導関係（実施した普及活動，蚕業技術指導所展示概要，蚕桑実地講習，蚕業技術員登録に関する調査）
免許または許可業者関係　(天)

蚕　糸　学

家蚕卵比重の大小と卵の性状及び次代蚕の優劣について（第2報）

米海米・門脇浩・島根蚕試報，34，16～19 (1956)

太平×長安，散卵280gを使用して昭和30年実施。

1. 比重1.09がもっとも多く，ついで1.05～1.08が多い。
2. 比重1.04～1.09においては健卵歩合多く，不良卵歩合が少い。1.02～1.03はやゝ不受精卵が多く，1.10は約半数が不良卵である。
3. 次代蚕飼育成績においては，1.10を除くの他は各群間に大差は認められないが，1.08では病蚕の発現数が多かった。繭質に特に差は認められない。
4. 重比重（1.10）のものは実用的に不適当だが，軽比重のものは充分実用に供しうる。　(小山)

反当桑面積の調査

福田信蔵・島根蚕試報，34，7～9 (1956)

稲作においては稲の反当葉面積を測定し，それから米の収穫量を推定することがある（葉面積1反歩について米1石というのが大体の見当）著者はこのような生育量の調査を桑について行つた。その結果，反当葉面積は品種，時期，仕立法などによつてかなり相異があるが，国桑20，21号春刈が約10反歩でもつとも広く，改良魯桑春刈，栃木桑夏刈，改鼠春刈一之瀬春刈，国桑27号春刈が約7反歩でこれに次ぎ，改鼠，一之瀬夏刈は共に約3反5畝でもつとも狭かつた。一般に反当生葉量は夏刈は少く春刈に多く，生葉量の多いものが葉面積が広い。また桑葉の多収穫を計れば葉面積を増加し，桑質の低下を誘因しやすいことが指摘され，その対策として次の方法が提示された。

(1) 春蚕期においては間引き収穫を行う。
(2) 夏秋期においては日照の少い下方の葉，短小枝の収穫または交互収穫を行う。
(3) 株の高さを高くし通風，透光をよくする。　(小山)

竹田寛先生（蚕25）農学博士の学位を受く

本学部養蚕学科竹田寛助教授はかねてより「家蚕その他数種絹糸虫の誘引腺に関する研究」と題する学位請求論文を東京大学に提出中のところ，昭和31年12月9日を以てめでたく農学博士の学位を授与されることになりました。

ちなみに先生は母校養蚕学科に学び卒業後直ちに片倉蚕業研究所に入所せられ，昭和19年母校に講師として迎えられるに至るまで，その間第2次世界大戦にも参加せられ満洲から南方諸島にと転々幾多の苦労を重ねられた当時の苦労が先生をして現在の如き忍耐と理解ある愛情の持主たらしめたのか学内に存つて学生に対してはおしみなく深い愛情と理解を示し信望もまた厚く，一方研究室においては遂げずば止むことを知らない一貫した信念と情熱とをもつて研究に没頭するという，この堅い信念，この強い忍耐と努力をもつてしてこそはじめて今回の学位授与に至つたものであると考えます。

以下先生の学位論文の内容について簡単にその概要を御紹介いたします。

この研究は家蚕蛾科及び天蚕蛾科に属する絹糸虫を材料とし，その誘引腺（雌蛾の末端に存在し雄蛾をよびよせるに必要な匂いを発散する袋状の器官）について組織学的，形態的並びに生理学的方面より更にはこれが理化学的方面にまでも及ぶ非常に広範な面から追求したものであり，誘引腺に関しての全貌を一躍明るみに出した興味ある研究であります。

内容についての要点を示せば次の如くであります。

1．誘引腺の発生について

幼虫期にあつて将来成虫の誘引腺に発育分化すべき部分は幼虫第11環節の腹板の皮膚の部分に存在することを確かめたので，この皮膚の部分を切りとつて他の幼虫に移植すれば変態に伴つてその原基は発育分化し誘引腺を形成する。この場合移植される幼虫の性別には関係なく発育分化し且つ雄に形成された誘引腺でも，雄を誘引する物質（以下誘引物質という）を生成することからその物質の基礎的成分は雌に特有なものではなく，腺細胞さえ存在すれば雄においても生成されるものであるという。このことは近年愈々問題となりつゝある昆虫ホルモンの問題と考え合せるとき非常に興味深いものと思われる。

2．誘引腺の誘引物質の揮散過程

誘引腺から誘引質が揮散する状態は絹糸虫により異り，即ち誘引腺の表面にあるキチン突起から揮散されるもの（カイコ，シンジュサン，ヒマサン）と，突起がなくキチン層に崩壊部を生じこの部分から揮散するもの（テンサン，サクサン）との2つの型に分類できるとしており，電子顕微鏡等を用いてこの点を追求した。

3．誘引腺の形態について

また誘引腺の形態の相似がその誘引物質の共通性による類縁関係（後述）と一致することを明らかにしており，カサン型（カイコ，クワコ）テンサン型（テンサン，サクサン，クスサン，ウスタビガ）シンジュサン型（シンジュサン，ヒマサン）オオミズアオ型(オオミズアオ)の4型に分類している

4，家蚕誘引腺の生理機能について

誘引物質の誘引現象には日週期性が存在することを認め，種々なる実験の結果その日週期性には自律週期性が存在すること，また更に明条件は誘引腺に対し誘引物質の誘引力を抑止し，暗条件はその力を促進せしめる作用を有するものであると考察している。そしてその誘引腺の機能（膨出，收縮）を支配する中枢は頭部の神経球であるが，直接に收縮を司る神経球は第ノ神経球であることも証明し，この機構について解所した。これまた前述の発生に関する問題同様現在の学界の中心問題にふれている点だけに注目にあたいするものと考える。

5，ヒマ蚕雌蛾誘引物質の雄蛾誘引の週期性

一方ヒマ蚕雌蛾については誘引腺より昼間の時刻に抽出した誘引物質は誘引力をもたないが，夜間の時刻に抽出したそれは極めて強い誘引力を有し，明らかな日週期性を示す事実を確認している。

しかしこの週期性は雌蛾を恒暗におけば昼間においてさえ雄蛾を誘引し，恒明におけば昼間は勿論夜間においてさえ誘引力のないことからこの週期性には家蚕と異り自律週期性は存在しないものであると論述しており．その場合実に興味あることは，この明暗を感受する器官は成虫の触肢であることの新事実を発見したことである。そして．結論としてその週期性発現の機構を証明し論及した。

6，誘引物質の共通性と類縁関係

誘引物質の共通性による類縁関係より第1群・家蚕群（カイコ，クワコ）第2群・天蚕群（テンサン，サクサン，クスサン，ウスタビガ）第3群・樗蚕群（シンジュサン，ヒマサン）の3群に大別し分類を試みており，これら誘引物質には特種的異性の存在することを指摘した。

このことは更に理科学的な方面からも追求し，誘引物質をペーパークロマトグラフイによつてその分離を可能とし．その示したRf値は勿論その誘引物質中にはそれに特有な螢光物質の存在することを発見し，綜括してAllurinochromeと命名しているがこのAllurinochromeの示す色においてもこの共通性による類縁関係を裏付けしている。即ち

Allurinochrome

A…コバルト紫（カサン，クワコ）…Rf値 0.84

〃　B…青（テンサン．サクサン，シヨウサン ウスタビガ）……Rf値 0.93

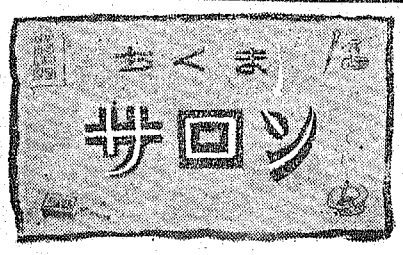
〃　C…紫（シンジュサン，ヒマサン）…Rf値 0.88

更にこの誘引物質中に誘引力の発現に極めて重要なる役割を果している黄色色素を発見し，誘引物質に特有な色素であると同定してAllurintinと命名している。

また，誘引物質の分光化学的研究に於て，ベックマンスペクトロホトメーターにより誘引物質の吸收曲線を調べ誘引物質の吸收極大は波長440mμを中心として明瞭な吸收極大を示し，誘引物質が誘引力を消失した場合にはこれが認められないこと及びこの吸收極大の山の高さは誘引物質の量に比例すること等多くの成果を收めている。そして論文は最后にこれが誘引物質の生成機構に論及し，この物質を生成するに必要な基礎的成分は体液中に存在し波長440mμ～450mμを中心とした吸收極大と470mμに小さな山を示す物質とより生成せられるものであるとしている。

以上がその論文の大略でありますが，先生は従来殆んど未解決であつたこの分野に終始一貫研究の歩を進め多くの知見と示唆とを与えられました。このことは基礎的研究の分野を新たに開始したのみならず今后の蚕糸業の応用上に貢献すること少なからざるものにあると信じます。終りに同窓生諸兄とともに先生の今后における御活躍を祈る次第であります。

（蚕体解剖生理研究室　田中一行）



続 サ・エ・ラ

神林浩三

—第11話—（総会を顧みて）

31年の総会は例の通り11月勤労感謝の日に開催されましたが，いつもいはれる如く各会員の関心を反影してか支部の方々の出席率も漸次上昇しつつある事は何と云つても喜ばしい現象，特に今回は盛会で活気を呈したと云えましよう。然し乍らこれは必ずしもわが千曲会員の自覚或は協力の現れであるとそのまま受取つていいのか？　多少の疑問もあります。といふのは今回の臨会には去る30年来の懸案である母校50周年記念事業についての結論が出される筈であつたので特に各支会の関心が昂まつたのではないかとも考へられるからです，この問題については相当検討もされましたが御承知の通り更に向ふ1ケ年間研究する事になりましたが出席会員の中には期待に反し肩すかしを喰つたといつた感じで拍子抜けされた者もあつたかと思います。

結局一般会員に記念事業の主旨が未だ徹底していない現状では結論を出すには時期尚早ということにはなりましたが直接本問題にタツチされた本部役員や委員の方々の間では凡そ考へられる事業種類は殆んど出尽し検討された感があつた事も事実と思います。要するにその中で何れの案が最善かを決定すべき段階に来ていると見るべきではないでしようか。

筆者はいつも総会毎に出席して本会運管方法その他について忌憚のない苦言を呈するを例として居りますが，要は千曲会発展を熱望する熱情のほとばしりであつて他意は全く無いのが実情であります。所謂利口なヒトは自己の利害に関係薄い総会などでは発言したがらぬものでその方が暑も寒くないというわけでありましよう。さり乍ら千曲会の現状に満足せず益々本会の発展を希求する場合には敢えて苦言を呈し，憎まれ役も買つて出る位の意気があつて然るべきものと思います。

この意味に於て総会などでは出来得る得り広範囲に，なるべく多くの代議員の発言を得て結論を出して実行に移し度いものであります。

会報発行についてもこの両3年来総会毎の提案要望が実を結んで毎月発行されるようになり大変結構でありますが一般会員諸氏はもつともつと気軽に投稿され御希望なり御意見或は文芸作品を寄せられる事がそれ自体本会発展を意味する事を自覚せらるるやう切望する次第であります。

とにかく今度の総会は出席者約 100名に及び活発な発言や熱心な討論も行われた事も考へ合せ一般会員が漸く本会の在り方に注目するに至つた証左と見るべきで何といつても心強く千曲会未だ脈ありと云うべきでしよう。

皆さんこの機会を逸することなく各支会の充実を図り多少の無理をしても支会の集り等には出席されて御意見を発表されその結果を本会に強く反影せしめるよう御協力下されんことをクドイことを承知でおすすめ申上げたいのが筆者の老婆心と御諒解願い度いのです。

千曲会報の編集に望む

宮下久吉

千曲会報が毎月発行されるようになつてから既に半歳経過した。それ迄いつ出るか皆目見当のつかなかつた会報が一躍毎月出るようになつたということは吾々を驚かすに充分であつた。この蔭には恐らく編集を担当する幾人かの人々の大きな犠牲と責任感があるに相異ない。千曲会の活動強化だとか，連絡を密にせよとかいうことも，具体的にはこの会報を通じて行われることが，中心であることを考えると会報が定期的に発行されるということは是非必要である。今后如何なる困難があつても会報の定期的発行ということは必ず実行して頂きたい。そのためには会員の協力を絶対に必要とする。編集に携わる人々の労に報いるための措置も充分にとられなくてはならない。幸にして先頃の総会において私の提案が容れられて，編集に関する予算も認められたのであるから，編集者はより良き会報を実現するために更に一層努力して欲しいと思う。

さてこの数ケ月の会報を読んで私は次のような感じを持つた。

先ず第一に指摘したいことは，この千曲会報の編集には果して一定の方針があるのか何うかと云う疑問である。何故こんな疑問が起るかと云えば会報のトツプを飾る記事が，8月1日，平和的共存か（林要氏）10月1日，ソ連の新動向と日ソ交渉について（蠟山政道氏）血液凝固の話（佐藤武雄氏）の如く凡そ多くの千曲会員の携つておる仕事とは直接何の関係もなさそうな記事であるからである。この人々は夫々の分野における最高権威者であるが，ここに掲載されたようなことは他の商業新聞や雑誌で充分知ることのできること許りであつて何故会報に掲載する必要があるのか私には判らない。恐らく私の考えでは，第3種郵便物として認可されてから会報は何か巻頭に論文的なものが必要であり，会員からの投稿には適当なものがないのでたまたま間に合せに掲載されたのではないかと思う。

つまり原稿が集らないのである。そのことは編集者が度々書いてもいるし，吾々の経験からいつても当然であろうと思う。そこで私は原稿集めについて2つのことを提案したい。会員多数の要望する記事（例えば繊維産業乃至蚕糸業に関する論説）は投稿を待つだけでは決して集らない。目星しい人を見付けて編集部から依頼することである 例えば 蚕糸業振興について目下業界あげて大騒ぎしているときに，斯業の向うべき方向を端的に指向する論説を掲載する，例えば7月1日号の「蚕糸業の現況を見つめて一つの見解」は卓見である。これを執筆された池田さんのような識見を有する先輩は会員の中には少からず居られると思う。人はいくらも居ると私は思う。又編集部から直接依頼することが困難であるならば支会を通じて依頼しても良いし方法はいくらでもある。つまり編集は場当りでな

く，計画的にやつて貰いたいというのが第1の要望である。

第2の希望は右と関連するが，支会に通信員的性格の人を置いて．各支会の動向を常に連絡することである。今迄の会報でもたまたま各支会の様子が出るが，これは嬉しいことである。これあつてこそ会報は真に会員の連絡を果すことができる。

又最初の希望に関連するが，今迄の会報で特に感ずることは，校内にある同窓以外の先生方の論文なり随筆も是非欲しいと私は思う。これらの人々の書かれていることは，第3者の見る千曲会批判が時々あつて，我々の反省に役立つし，最近母校に来られた先生の紹介ともなつて会員は会報を通して自ら親しみを覚えるものである。

最後にもう一つお願いしたい。先日の總会で問題になつた50周年記念事業については，11月1日号で松尾，香山両氏による基金案と繊維会館案の概要が出て居るが，この記事は正にタイムリーであつた。この記事をきつかけとして50周年記念事業のあり方が活潑に論議されるものと思う。私はこれに関連して總会に於ても問題となり議論の沸騰した繊維学部の今后のあり方について検討していると伝えられる「学部振興委員会」に於て，養蚕，製糸両科縮少の意見が出たそうであるが，その意見の内容を知りたいと思う。当日も特に若い層から50周年記念事業よりも根本的に学部のあり方を再検討せよの声もきかれたが，この問題は独り学部の問題にとどまらず千曲会員全体の関心を持つ問題と考えるので縮少意見と現状意見の代表的見解を是非おききしたいと思う。（蚕32）

会員の近況

繊化会大阪部会開催レポート

大阪在住の繊維化学科卒業生の数は30名を越えるが仲々一堂に会して語り合うチャンスがない。幸い専門学校の1回生は数名いるのでこの小グループでは機会あるごとに年に数回も集まることもあるが，化学科創設以来16年，卒業生も400名を超えている今日，横のみならず縦の連絡を強化せよという声が盛になり後輩に呼び掛けて地区ごとに団結しようということになつて来た。

京部部会のスタートも順調でその詳細はこの時報でも報ぜられたが，その意味では大阪は最も古い歴史をもつている。すなわち最初の化学科卒業生の会合は昭和26年の夏，大阪は御堂筋の，とある料亭で参集者は地元はもとより遠路徳島より馳せ参じた人数は正確ではないが30名ばかりで盛大に行なわれた。その後小グループの会合はあつたが大きいものはなく第2回は昨年8月心齋橋のビヤホール「ミュンヘン」20名ばかりで行つた。

今年は9月2日（日）場所を北に移して梅田新道の芝苑にて午后5時より開かれた。期日が急に変更になつたせいもあつて人数は20名以下となる。当日は9月早々とは云え33度を越える蒸し暑い日でしたが，一同至極元気で先づ開会に引続き奥神大教授のあいさつ，北条君の母校近況報告等があり，一同千曲会のあり方や化学科卒業生の連絡強化等について真剣に検議が加えられた。その後こん親会に移り会社での仕事の相談，技術研究等について先輩後輩の隔てなく一つの門を出た者同士として楽しい雰囲気の中に時をすごした。アルコールの濃度が増すにつれて各自ののど自慢を披露したが平素の訓練が出来ているのか透逸が多く，時間のすぎるのも忘れる位であつた。一同今后の健闘を祈つて乾杯をして別れて行つたが次後は色々のグループで西，東と出掛け当世流行のアルサロか○○○喫茶かは筆者の知る所ではない。次回は他科の方々へも呼びかけて盛大なる会を開きたいと熱望している。（化1 西田謙三）

三丹便り

母校より林貞三先生をお迎えして，千曲会三丹支会總会を11月15日夜福知山市〃ひらさ〃で開催しました。

出席者は

林先生，山本孝三，塩見喜六，山岸松次，岡田康三，的場小六，馬場長市，小林清志，太田良信，千葉達人，林秀門，細川豊，小林進，倉元隆太，村上義美，塚田和麿，尾崎孜，西井茂雄，菊地六郎目崎正夫，渡辺敬一郎，山上三義，仁熊毅，岩崎俊男，村岡敬公，神林茂，平坂忠雄，柳沢涵一の諸氏に，特別参加として山陽支会秋山武一郎も加つての29名でした。

特に林先生と同級の塩見，山岸，岡田の大先輩が林先生を交へ4人お顔を揃えられて40数年前の想い出話に打興じて居られる様は，大先輩の喜びは云うに及ばず出席した一同本当に嬉しく感じ正に同窓のよしみはかくあるべきであるとの手本の如くで千曲会全員に知つて頂きたいと考えた次第であります。

先ず馬場支会長の林先生をお迎えし支会總会を盛大に開催出来ますことは喜ばしい旨の挨拶あり．次いで林先生の昔に変らぬ話術により，母校の近況，繊維学部の将来の在り方，千曲会費値上の件，特別活動資金の件，等を承つた後議事に入りました。

1．母校千曲会總会の一件出席者の馬場支会長に一任する。特に千曲会費値上の件については未納者対策を積極的に進める意見が多かつた。

2，10週年記念事業の件ー本部よりの緊急連絡の如く更に後1ケ年継続審議することに讃成。

3，学術会議員選挙の件ー中部方針にそつてお互に努力することに決定。

4，支会役員選挙の件ー塚田氏を新任しその他は留任と決定。

支会長　馬場長市

副支会長　勝又藤夫　細川

幹　事　太田良信　小林進　村上義美　塚田和麿　目崎正夫　渡辺敬一郎　岩崎俊男

5．会計報告その他

以上で總会を終り記念撮影后懇親会に移り，盛会でした。（化2岩崎俊男）

東京支部総会報告

去る11月6日どしや降りの雨の夕べ有楽町蚕糸会館地下で開催された千曲会支部總会に出席して熱心なる会員の元気な御顔を拝見して誠にうれしく又考へさせらるるものが多かつた。

当日出席者の顔振れを大別すれば

(A) 總会出席常連とも言うべき人々

(B) 事業職務が多忙なるも都合して出席した人々

(C) 現役を離れ又は失職中の人々

となる。

欠席者の顔振れは(B)(C)の人々特に(B)の人々が大多数ではなからうかと思はれた然し年に一度の支部總会に(B)の人々の出席こそ会にとつてもその人個人にとつても意義あるものではないでしようか。

現職多忙といえども予め通知のいつてる總会に2時間や3時間出席することが出来ないでありましようか，いや理由は他にあると邪推するものであります。私は敢て御忠告申上げる「千曲会を敬遠するなかれ」と。

かような同志の集りこそその人の大成を促し又人生を豊にする「会員としての自信と反省のよい機会」であると私は考える。「うちの会社は，うちの役所は学閥がうるさいので」と言ふ人々は能力が他に抜きんで一段と実力があることによつて自己の今日の地位ありとの不知不識のいわゆる「うぬぼれ」こそかえつてその人の地位を危くするものであり又それ以上の進歩のないものであることは世上に数々の実例がそれを示して居る。

勿論学窓を出たと云ふことのみではその人々の今日の地位も職務もあり得ずその人の人並以上の努力と勉励に因るものであることは事実であるが千曲会員であることがその人々の今日ある原因であることも間違いない之又事実である。多数同窓の中には千曲会員であるをあきらかにすることにより，その人の出世のさまたげになると考えて居らるる人々もあるでありましようが右に述べたように事実は如何ともいたしかたありません。

それならば「会員としての誇りと自信を持つて」日常業務に精励し晴れの総会には進んではせ参じ昔をしのび友情を暖め新な勇気を得て帰る人々こそいづれの職場に於てもほんとにたのもしい人々ではないでしようか，そこに本当の同窓会の意義があると思ひます。

母校も50週年事業云々と議題になる今日千曲会員の長所と短所が愈々社会的にもはつきりとして来て居ります。短所必しも短所ならずと割切るのは早計であるやはり長所はより伸し短所は矯めることにより一歩一歩前進し立派な人間となり会員となることが出来るものである。

荒涼たる世相に美しき友情こそ一人一人の社会的信頼の高揚となり千曲会発展の基礎であると思ふが如何（糸21吉田生）

東京女子会員の皆さんから

ポプラのもみじ散る秋晴れの午後，東京蚕糸試験場に勤務する教婦科卒業生一行6名は毎月のさゝやかな貯えがみのつて，新宿メイフラワーへフランス料理の試食会と協議一決し，久し振りに楽しいひと時を過した。

北沢さんはこの日のために新調した，素晴しい黒のカクテルドレスを着こなし岩田さんはクラシツクなイヤリングをつけるなど，私達はそれぞれ適当なおしやれをして，ボーイさんの案内で二階の一室に通された。

繁華街の新宿にいるとは思えないほど静かなその洋間は，清楚な感じで中央におかれたテーブルの上には，私達のために用意されたナイフやホークの類が，バラの花を型どつてたたまれたナフキンと共に並べられてあり，白い水盤に活けられた白と黄色の菊の花が部屋中に香つていた。

中島さん（旧若林）と川辺さんに向い合つて山田さんと私が席につき，岩田さんと北沢さんがそれぞれ向い合つて着席したところへ，黒の背広に蝶ネクタイをした品の良いボーイさんが，まづ最初の料理としてオードブル（前菜）を運んで来た。岩田さんなどは洋食の席も数多く踏んでいるので，ホークやナイフの使い方も堂にいつたものだが，私などはソーセージをいただくにもテーブルが動くほど力を入れてしまい，隣席の北沢さんに「ほら，ほら」と注意される仕末。しかしその北沢さんもつるつるするカクテルドレスの膝から，ナフキンを数回落してしまつたことも事実だつた。

スープ，魚料理，肉料理が出て主食コースを終り，デザートコースになつてプリン（お菓子類）フルーツ（みかん）コーヒーが選ばれ，2時から4時までの2時間かかつてお料理を全部食べつくしたわけであるが，わづかなビールに頬をほてらせた私達は「初めてにしては皆さんお上手ですね」とボーイさんからお世辞を云われ「ほゝゝふゝゝ」と笑い合つた

すでに都の空もたそがれて，窓にネオンのまたゝくころ，食後の爽快な気分にひたりながら，お互いに同じ職場に在つてもなかなか心ゆくまで話し合う機会とてない私達は，せちがらい世の中を一女性として，また同窓の友として今后どうやつて生きぬいてゆこうかと，心ゆくまで語り合い励まし合つて後，好きな歌を御披露しましようと云うことになり岩田さんはケ・セラセラ，山田さんはツーヤングを唄うなど本当にわだかまりない楽しいひと時を過すことが出来た。

31.12.12（教3 保屋野）

（メイフラワーでフルーツ主食する寸前
前列左から山田，岩田，中島，川辺。
後列左から保屋野，北沢。
写真は私のヤシカフレツクスで写しました。実物はもう少しよく成長しております。）

東京の皆様に

久方ぶりに東京からの御手紙で楽しい行事の御様子御知らせいたゞき，あれこれたのしい思出を想像致して居りましたら，今朝冬にしては暖かな陽ざし美しく晴れた空のもとで，希望にあふれた御手紙や御写真に接し皆様のいつに変らぬお元気さで（保屋野さんの腕前もさる事ながら）みちがえる様な御麗人揃の御写真本当になつかしく拝見させていたゞきました。

たえず何かに希望を持ちながら御精進なされる皆様をいつも嬉しく思つて居ります。今度は珍らしい思つきを実行なさつてどんなに楽しかつた事かと御さつし致して居ります。

学生時代のニおもかげニを残しつゝ磨かれて行かれるゆかしさに，心のあたゝまる思で一杯です。こゝに諸嬢の御健康を御祈り致し全国の同窓の方々にまみえる機会を得られました事を共に御よろこび申上げます。 (31.12.12) 堀内 波

母校便り

信州大学科学教育研究室第5回研究発表会行わる

本学部に開設されている信大科学教育研究室の第5回研究発表会は旧臘12月1日（土）午後1時より本学部に於いて行われた、科学教育研究室長伊藤本学長の開会の辞に始まり，下記の如く研究者の成果発表と，中村・佐藤両先生の特別講演があつて後，懇親会があつた。

研究発表者並に演題

1. 結晶性高分子物質の力学的性質…岩村田高校　関口直度（指導者　佐藤良泰）
2. 作物種子の発芽に及ぼす日長の影響…飯山南高校　永井昭雄（指導者　田口亮平）
3. Pleoptera の系統分類と口器特に下唇 Labiumについて…（指導者　八木誠政）
4. リンドウ科植物の細胞学的研究…長野西高校　和田善三（指導者　佐藤春太郎・長島栄一）
5. ミクサーを兼ねた遠隔操作機の試作…長野南部中学校　吉原英敏（指導者　天白一馬）

特別講演

液状絹を中心とする繊維形成過程のレオロジー　信州大学助教授　佐藤良泰

エリザベス朝の世界観とシエクスピア　信州大学助教授　中村六男

??ちくまクイズ??

オ5回

私が土曜日の午後，2階の会議室の前を通ると，中から甲論乙ばく，けんけんガクガクの論声が洩れて来た。どうやら会議は最高潮らしい。とぎれとぎれに聞えて来た言葉を綴つて見ると次のようであつた。

きんぎんしねじね○うゆうよ？

どうも当日の議題らしいのだが，不明なのが一つ（?印）あるのが残念であるさて，不明の文字は何でしよう？

（出題・天道虫）

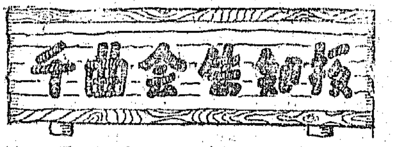
締切：2月15日　宛先：千曲会クイズ係
用紙：ハガキ

正解者多数の場合は抽せんにより3名に賞品を呈します。

第4回クイズ解答　1. 日本語の基本文字48字を重複しないで全部よみこんである　2. 弘法大師（空海）　3.「いろは」には「ん」が入つていないが，この歌には「ん」がよみこんである。

前回は郵送事情が悪かつたためか，期日までの解答者は4名で，しかも正解者はありませんでした。

オ一回理事会開催



旧臘12日（土）新メンバーによる初理事会を開催し，去る定期総会の委任事項等下記の通り決定した

記

(1) 評議員選任について

去る定期総会の決議に基いて下の通り全国各支会長の外10名計49名の方が選任された。

評議員　桐生義文（北海道）和田敦（北奥）高橋義三郎（宮城）栗原章（山形）宇治義春（福島）船後勇平（茨城）高橋涅一（栃木）小山清（群馬）武田一好（埼玉）鈴木教吾（東京）島原友之助（神奈川）秋山利夫（越佐）北原基（北陸）坂田粂雄（福井）山崎保太（北佐久）野沢司馬作（南佐久）井沢喜三（上小）茂原重雄（更埴）荒井猛（北信）中山太郎（安筑）小口宗久（諏訪）石塚浪之助（竜川）山田斧一（岐阜）橋本武光（静岡土屋煦（東海）篠田平三郎（三重）垣田璟（近畿）浜香三（兵庫）馬場長市（三丹）上山毅（鳥取）黒岩覚（島根）土岡光郎（山陽）宇根山哲夫（四国）宮崎清治（愛媛）緒方善之助（香川）小山祖光（北九州）深追明（熊本）中島茂（宮崎）中山吉二（鹿児島）竹田寛　石川博　土屋幾雄　今井甲子男（学校内）荒木裔　花岡政庫（東京）母袋忠右ヱ門　伊藤常治（東信）上石睦二郎　中島真（北信）

(2) 幹事委嘱について

本会の運営の全きを期するため役員以外の母校内同窓会と母校外同窓数氏に下の通り幹事を昭和33年11月まで委嘱し理事会等開催の際は全幹事が出席し審議に参画することになつた。

幹事　竹内善吾　北条五郎右ヱ門（蚕）宮入広司　宮下文四郎（糸）太田和夫　田口玲（紡）樋口昭　龍山作水（化）菅沼茂　阿久津伊平　一之瀬正典　今井甲子男　石川博　池田忠夫　遠藤恒久　押金建吾　木藤半平　小山長雄　小山定　古平福紀　坂口育三　桜井善雄　桜井秀利　白井美明　清水周　清水猛　篠原昭　須田圭二　関博夫　竹田寛　田中一行　田中茂光　竹山くめ子　土屋幾雄　中原武　小林正治　西山久雄　西村善次　堀内波　松橋芳江　松尾卓見　美齊津利正　三石賢　山崎春蔵　矢彦沢清允　柳沢幸男　柳沢連子　饗場民雄　松本守人　市村亘　別府茂（学校内）

(3) 会費の納入促進について

各支会別の納入成績を調査し不成績を調査し不成績の支会には別稿の通り督促し特に不成績の支会役員の再編成等を懇願して，納入の促進をはかる事になつた。

(4) 会報連絡員の設定について

会報連絡員を設定して会報の原稿，のそ他会報登載資料提供の事に当つて頂き，尚会員の栄転や結婚等会員の慶事動静を規定の広告料をもつて会報に登載することになつた。

(5) 昇格期成同盟会より本会に引継がれた未収金について

上田繊維専門学校昇格期成同盟会より本会から引受けた未収金について詳細報告があり了承した。

(6) 久保藤一氏（本会書記）に贈る記念品と感謝状について

記念品は本人の希望を聞いて1万円の価格のものを感謝状とともに次の理事会のの際贈呈することになつた。

総会記事追加

先月号会報の総会記事中（5―7頁）に掲載漏れの事項がありましたので追加します。

(2)昭和30年決算について

猪坂幹事より30年度決算の監査報告があつて后，これは異議なく承認された。

(6)定款変更について

役員改選について全国各支会長を評議員に当ててはとの意見があり，この趣旨を考慮に入れて役員の選任を行うことに決定した。

会報連絡員の設定について

各支会長宛　千曲会理事長

拝啓　新春の砌愈々御清栄奉賀奉ります陳者本会運営に関しましては平素多大の御配慮に預り恐縮に存じております。就では去る理事会に於て，毎月発行される会報をより有意義にするため，全国各支会に会報連絡員を設定して会報の原稿蒐集その他会報登載資料提供の事に当つて頂き，尚会員の栄転や結婚等会員の慶事動静も規定の広告料を以つて会報に登載する事になりましたのでこれに関する動静提供等も担当願い度く，右会報連絡員一名御選定の上御報告賜りたく茲に貴意を得労々御依頼いたします。

茂原氏（糸17）からのお願い

原松代製糸所長茂原重雄氏は来る3月蚕糸業視察のため中共へ行かれることになりました。就きましては御旅行の成果をより大ならしめる為に，中共に知人をもつ同窓諸兄のお力添えを希つて居られます。御連絡は下記宛にお願いしたいとのことです。

長野県埴科郡松代町
原松代製糸所　茂原重雄

本会日誌

12月15日（土）新メンバーによる初理事会を開催，定期総会の委任事項等審議決定した。

会費納入方御配慮依頼の件

各支会長殿　社団法人千曲会理事長　野口新太郎

本会活動の活潑化に伴つて，同窓意識も漸く高まり会費納入成績も漸次好転して来ましたことは，各支会に於ける幹部各位の御努力に負うところ大なるものと深く感謝しております。去る総会後各支会別の会費納入成績を集計しましたところ，最良100%で40%以上が数支会，多くが20%前後でありましたが下記の如く貴支会の外10数支会が著しく納入率が悪いので，貴支会々員に御呼びかけ下され一段とこの成績向上に御配慮賜り度く御願い申上ます。

記　昭31.12.25

会費納入状況表

納入率	支会名
9%	上小（学部を除く上田市）近畿（滋賀，京都）
8	栃木，東海
7	北陸，岐阜，近畿（大阪）北佐久
6	北奥，東京，（都内）
5	島根，香川
3	東京（千葉），上小（小県）
2	近畿（奈良，和歌山）
1	愛媛，東京（山梨）

注　予定納入会費に対する納入会費の割合。

未納会費納入者

金200円
西尾精二(糸36)
神林治三(紡4)
西沢精一(蚕大1)
西原淳一(蚕17)
雨宮象二郎(〃30)
雨宮徳衛(化6)
飯田一郎(化3)
柄沢富雄(糸15)
北沢常雄(〃21)
黒岩匡(農4)
近藤常政(蚕大3)
佐藤直樹(農4)
芝田裕二(化3)
清水比呂夫(蚕28)
寺島幸夫(化8)
戸田正行(農1)
中村寿鶴一(蚕35)
広岡忠典(〃37)
広瀬洋(〃32)
松永典雄(農2)
宮城時久(蚕32)
宮沢伝(〃26)
山崎千春(〃30)
山崎要(糸34)
羽毛田彰(蚕大1)
西原昭三(化5)
中村盛一(蚕32)
田中甲二(化6)
吉越繁夫(糸22)
西沢重光(蚕17)
西原淳一(〃17)
清水智英(糸34)
杉崎義朗(〃34)
中島敬夫(蚕36)
藤沢豊(〃27)
塩見豊一(〃4)
塩田秀三郎(糸31)
秋山武一郎(〃19)
寺崎隆夫(紡19)
中島熊保(糸19)
永井勝末(蚕14)
日高篤(糸34)
北条五郎右衛門(蚕17)

昭和31—32年度会費
中曽根まき(教5)
山田良人(糸18)
上野成雄(蚕別3)
西尾精二(糸36)
坂口静次(〃28)

昭和31年度会費
母袋忠右衛門(蚕23)
平林潔(糸大3)
牧野芳成(糸37)
塚田柾春(蚕3)
三村大八郎(糸32)
土屋茂一郎(〃9)
金井英一(糸大2)
有賀淑子(化大4)
杉市太郎(糸33)
茅野光正(農5)
塚田長治(〃2)
平林沢和司男(糸24)
藤沢豊(蚕27)
塩見豊一(〃4)
塩田秀三郎(糸31)
秋山武一郎(〃19)
林新一(蚕2)
寺崎隆夫(紡19)
中島熊保(糸19)
橋本孝一(〃33)
川上保人(化大1)
永井勝末(蚕14)
岡田重一(糸22)
富岡秀(〃16)
吉沢武夫(〃4)
石塚浪之助(〃7)
松下紀男(〃17)
羽生英尚(〃30)
棚沢悌二(〃33)
清水悦雄(糸大1)
櫛原清志(蚕別3)
下平文穂(農5)
三沢保(蚕別1)
木下敦(〃2)
城下治雄(〃)
岡井忠夫(蚕大2)
松岡潔(蚕14)
宮沢芳雄(〃30)
伊藤文男(蚕32)
野邑昭雄(糸34)
永井千治(紡17)
代田久郎(化2)
市瀬猛文(農1)
松林昭男(糸大4)
滝沢甚吾(蚕大1)
篠田正信(紡12)
神崎聖徳(蚕21)
堀内隆吉(紡26)
清水一郎(紡大1)
勝野貞哉(蚕35)
山内二次(〃23)
高橋秀雄(蚕大1)

特別活動資金領收

(1月10日現在)

金4,000円
沓掛久雄(蚕19)
金2,400円
安井健一(紡7)
金1,500円
中山吉二(蚕12)
中島茂(〃11)
金1,200円
坂求(紡9)
金1,000円
近藤義信(蚕12)
竹内孝三(〃14)
上林賢造(〃21)
金900円
笠原義昭(紡28)
金600円
立岩笑保(蚕3)
高橋貞一(糸29)
林田義雄(〃22)
内藤康三(蚕25)
金500円
水城孝勇(〃11)
金300円
上野康司(糸29)
戸谷和夫(蚕34)
本庄昇(糸24)
堀江章(〃32)
佐藤正明(紡23)
乾正(〃13)
丸山勲(糸20)
土屋邦雄(紡21)
大熊良孝(紡大4)
金井寛一(蚕33)
宮下潮(教養4)
山崎契裳惠(蚕36)
児玉新一(〃24)
日高篤(糸34)
岡村源一(〃6)
田井千幸(〃16)
大工原卓(蚕36)
小林宇佐雄(糸33)
金200円
重田正喜(蚕26)

退任教官記念資金領收

(1月10日現在)

窪田潤先生分
金1,000円
沓掛久雄(蚕19)
小林庄二(糸26)
鬲橋直(〃36)
林幸彦(糸大2)
金400円
和田利彰(蚕16)
金300円
井沢喜三(蚕16)
金200円
嶋崎昭典(糸36)

佐藤利一先生分
金1,000円
沓掛久雄(蚕19)
児玉新一(〃24)
金500円
水城孝勇(〃11)
上村賢造(〃21)
加々井精喜(〃13)
金200円
中山吉二(〃12)
前島正直(〃21)
内藤康三(〃25)

佐藤春太郎先生分
金1,000円
沓久雄(蚕19)
金500円
上村賢造(蚕21)
加々井精喜(〃13)
金400円
中山吉二(〃12)
児玉新一(〃24)
金200円
前島正直(〃21)
内藤康三(〃25)

会費領收

(1月10日現在)

入会金完納者
有賀淑子(化大4)
宮崎和男(化8)
宮入一雄(化大1)

未納会費納入者
金1,300円
中島文雄(蚕9)
金1,100円
乾正(紡13)
金1,000円
沓掛久雄(蚕19)
芝村靖夫(紡25)
金600円
宮入一雄(化大1)
金400円
児玉新一(蚕24)
福田昇平(化5)
金200円
日高篤(糸34)
北条五郎右衛門(蚕17)
九山勲(糸20)
金300円
花崎剛行(〃33)

昭和3年—37年度分会費
沓掛久雄(蚕19)

昭和31年—32年度分会費
小松典(蚕35)
倉沢正利(〃36)
小川朋次郎(旧職)
丸山勲(糸20)

昭和32年度会費
上原忍(蚕別5)
桜井汎(糸16)

編集後記

○本月号の原稿が印刷所に廻る頃、桐生義文氏(蚕19)の訃が報ぜられました。長い斗病生活に耐えられながら善き同窓の一員として千曲会の将来を論じた一文を、また孤高の境地に立つてユーモアに富んだ随想、川柳などを寄せて下さつたのも、つい此の頃のことでした。その人今や亡し。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈るものです。

○会報毎月発行の効果漸く現われて、たくさんの御投稿を頂き編集部一同うれしい悲鳴をあげています。いただいた原稿は紙面の許すかぎり、一号も早く一篇でも多く載せようと苦心していますが、未だ充分御期待に添いえず残念です。なお御投稿の際はどんなものでもよろしいですから、必ず"原稿用紙"に横書でお願いします。

会員諸氏の御健康を祈ります。(中原記)

編集理事 田口亮平 編集総務 小山長雄 部員 石川博 西山久雄 清水周 柳沢幸男 美斉洋利正 中原武